資料 1

令和 8 年度 事業計画書

1、定款に規定する事業に則り次の事項を行う

公1－1 都市防災・美化に関する調査・研究

⑴ テーマ 「地上部の強剪定と根系支持力の関係に関する調査研究」

～ 「樹木の倒伏・折損可能性の計量的調査研究」で明らかになった課題への対応 ～

⑵ 調査・研究の背景と目的

都市防災美化協会の令和7年度に行った「樹木の倒伏・折損可能性の計量的調査研究」では、腐朽空洞率50％以上の樹木をはじめ、腐朽が見られる樹木や外観的に欠陥が見られない樹木を対象に、PiCUS Tree Qinetic による引張試験を行い、その専用解析ソフトarbostatによって倒伏・折損可能性を計量的に評価した。また、arbostatによって倒伏・折損可能性が高かった場合の保全措置の1つである風圧軽減剪定の効果を計量的に検討した。

さらに、arbostatにおいて幹傾斜0.25° に要する引張モーメントをもとにした倒伏可能性評価を検証するため、引き倒し試験を行い、幹傾斜0.25° に要する引張モーメントと倒伏時の引張モーメントの関係を解析した。

上記試験の結果、樹木の倒伏・折損可能性は腐朽空洞率だけで評価すべきではなく、PiCUS Tree Qinetic による引張試験で計量的に評価できることが確認できた。また、倒伏・折損可能性が高かった場合の風圧軽減剪定については、樹高低減、枝張り縮減、透かし剪定の効果を計量的に検討し、有効であることを確認した。

ただ、風圧軽減剪定では、過度な剪定によって根系が減退して支持力が低減し倒伏可能性が増すことも懸念される。つまり、樹高や枝張りを大きく減らせば風受け抵抗は減らせるが、剪定が強すぎれば根系が減退し倒伏する可能性が高まってしまう懸念もある。さらに、強剪定では樹勢が悪化し腐朽が起こる可能性も高くなり、樹冠被覆機能も失われてしまう。

前年度の調査・研究の成果を踏まえ、地上部剪定と根系支持力の関係を、強剪定実施前と実施半年後に引張試験を行うという、実験的な解析を試みることによって、より効果的な樹木の保全・管理体制構築につなげることを目的とする。

⑶ 調査・研究の内容及び方法

(1)内容

地上部剪定と根系支持力の関係を実験的に解析する

(2)方法

街路樹や公園樹木等として代表的な落葉樹のケヤキ、ユリノキ、トウカエデと常緑樹のシラカシを対象に、強剪定前にPiCUS Tree Qineticによる引張試験で倒伏可能性を計量評価した後、強剪定し、約半年の生育期間後に再度引張試験を行い、倒伏可能性の計量評価し、強剪定による根系支持力の変化を解析する。

なお、上記試験はすべて千葉大学大学院園芸学研究院の研究圃場(松戸)で行う。

⑷ (公財)都市防災美化協会に調査・研究委員会を設置し、調査・研究を推進する。

① 調査・研究委員会の構成 (委員は予定、50音順に表示)

＜統 括＞	・西口敏之	公益財団法人都市防災美化協会 理事長
＜委員長＞	・藤井英二郎	公益財団法人都市防災美化協会 理事
＜委 員＞		
	・石井匡志	一級造園施工管理技士の会幹事長
	・上杉俊和	公益財団法人都市防災美化協会 理事
	・大島 渡	(一社)街路樹診断協会事務局長
	・木下 剛	千葉大学大学院園芸学研究院教授
	・妹島哲生	公益財団法人都市防災美化協会 常務理事

・當内　匡　　国際アーボリカルチャー協会理事
・中島　宏　　公益財団法人都市防災美化協会　顧問
・野上一志　　(一社)街路樹診断協会常任理事
・細岡　晃　　公益財団法人都市防災美化協会　理事
・細野哲央　　(一社)地域緑花技術普及協会代表理事
・本間雄二　　千葉大学環境園芸フィールド科学研究センター技官
・山下得男　　(一社)街路樹診断協会副会長
・吉岡賢人　　(株)吉岡緑地代表取締役
・和田幸子　　公益財団法人都市防災美化協会

＜事務局＞　・吉岡賢人　　(株)吉岡緑地代表取締役
・和田幸子　　公益財団法人都市防災美化協会

その他必要に応じて防災、都市計画、環境等の専門家からメンバーの追加を行う

② 調査・研究委員会の運営
「調査・研究委員会」は3回実施
◍第1回委員会　(2026年 4月)
◍第2回委員会　(2026年10月頃)
◍第3回委員会　(2027年 2月頃)

⑸　調査・研究期間

2026年4月より2027年2月までとする

⑹　業務委託契約の内容

① 業務委託契約の種類及び名称

「地上部の強剪定と根系支持力の関係に関する調査研究」

② 業務委託期間　2026年4月から2027年2月までの間。

③ 契約締結日　2026年4月

④ 委託先　藤井英二郎

⑺　調査・研究報告書の体裁　　A4判　100～150ページ

公1－2　都市防災・美化に関する図書・印刷物の発行

⑴　① 不特定多数の都民が当協会の行う調査・研究の成果品を活用することによって、防災・美化対策の一助になるよう出版する

② 国や地方公共団体の防災、環境の保全、保護及び整備等の担当者、関係者及び大学等の研究者に役立てて頂くよう出版する

⑵　出版物

「都市の防災・美化のための樹木の倒伏・折損可能性の計量的調査研究」

⑶　出版部数　600部程度

公1－3　都市防災・美化に関する普及・啓発

⑴　都民及び団体等への都市防災・美化に関する普及・啓発活動の一環として都市防災・美化に関わる大学の研究者、行政、研究機関及び図書館等に出版物を無償頒布する

⑵　当協会の出版物を活用して、防災・美化対策に関連する講演会、協議会等で公表したり、2026年度にシンポジウム・セミナーを開催する等によって普及・啓発を図る。